授業科目	英語学概論Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	西原　真弓						
授業概要	前期の英語学概論Ⅰで学習したことをベースに、英語学概論Ⅱでは、英語学研究の中でも「語用論」「社会言語学」「英語と文化」「認知言語学」に焦点をあて、また違った角度から英語という言語に関する理解を深めていくことを目的とします。それぞれの分野内での基本的な理論についての講義を聞き、それを応用して自分なりに英語の表現を分析し言語の深さを実感できるようになります。						
授業形態	講義			授業方法	ディスカッション		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	語用論、社会言語学、英語と文化、認知言語学分野で扱う授業内で学習した事象について具体例を挙げながら、大まかな説明ができる。(DP1) 学習した理論を応用し基本的な考察ができる。(DP3-1)
理想的レベル	語用論、社会言語学、言語と文化、認知言語学の分野で扱う事象について、授業内で学習した内容を深く理解した上で、自分で取り上げた別の事象に応用して具体例を挙げながら、わかりやすく説明できる。(DP1) 学習した理論を主体的に様々な事象・現象に応用し、分析をすることができる。(DP3-1)

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	80%	学習した内容の理解度を筆記試験で確認する
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	20%	学習した理論を英語の諸現象に応用する課題に取り組む関心・意欲を評価する

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング										
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	EN21206J

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安（時間）
毎回の授業で学習したことを復習し、応用課題に取り組む	4

授業計画	
第1回	語用論

	やり取りが成り立つしくみを「協調の原理」と「会話の含意」を用いて考える。
第 2 回	語用論 「スピーチアクト理論」をつかって会話を分析する。
第 3 回	語用論 「ポライトネス理論」を理解し、会話を分析する。
第 4 回	語用論 「ダイクシス」について理解を深める。
第 5 回	語用論 「関連性理論」の基礎を理解し、会話を分析をする。
第 6 回	語用論 各自が語用論的視点で分析をしたことについての発表
第 7 回	社会言語学 社会言語学が扱う言語変異に関する研究を理解する。
第 8 回	社会言語学 言語選択「コードスィッチング」について理解する。
第 9 回	社会言語学 世界の様々な英語について理解する。
第 10 回	言語と文化 「言語相対論（サピア・ウォーフ仮説）」を通して文化と言語の関係を考える。
第 11 回	言語と文化 文化の文脈度による言語使用への影響について理解する。
第 12 回	言語と文化 「文化の次元」の指標を使って文化の特徴が言語や行動に及ぼす影響を理解する。
第 13 回	認知言語学 「言語は人がどのように世界や物事を捉えているかを映し出す鏡である」というのがどういうことなのか理解する。
第 14 回	認知言語学 ことばの多義性に焦点を当て、聞き手がどのようにその意味を認知しているか理解する。
第 15 回	語用論・社会言語学・文化と言語・認知言語学に関する理解度テストと総括
テキスト	長谷川瑞穂編著（2014）『はじめての英語学　改訂版』（研究社） ＊教科書は前期に購入したものを引き続き使用する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	以下、図書館で指定図書として閲覧・貸出可能です： 〇ことばと文化：　岩波新書　（鈴木孝夫） 〇本当にわかる言語学 ： フシギなくらい見えてくる! 〇言語学入門 ： これから始める人のための入門書 〇明解言語学辞典 〇言語学が好きになる本 〇First steps in English linguistics 2版

課題に対するフィードバックの方法	試験は採点し、返却する。 取り組み姿勢については、授業内でコメントをする。
学生へのメッセージ・コメント	我々が日常的に使っている「ことば」を意識的に分析する方法を学び、なぜ、人間のコミュニケーションが機能しているのかを解き明かしていくため、ことばに関心がある人には面白い分野だと思います。受け身的に講義を聞いて理論を知るだけでなく、その理論を実際に使って、いくつかの言語現象や会話のやり取りを切り取り、分析してみましょう。そうすることで、無意識に自分たちがことばを使って行っている様々なことを理解することができるようになります。自分の周りにある言語材料を使って主体的に分析をしてください。